

## 次期の見通し

平成 20 年度の販売電力量については、平成 19 年度の猛暑の反動による冷房需要の減が見込まれることに加えて、特定規模電気事業者との競争激化が予想されることから、前年度に比べて 0.5% 減の 2,960 億 kWh を見込んでおり、第 2 四半期累計期間<sup>( )</sup>においては、前年同期に比べてマイナス 0.9% 減の 1,466 億 kWh となる見込みです。

売上高については、電気事業において、販売電力量が減少するものの燃料費調整制度により電気料収入の増加が見込まれることなどから、連結で 5 兆 8,500 億円程度、単独で 5 兆 6,100 億円程度、第 2 四半期累計期間においては、連結で 2 兆 8,350 億円程度、単独で 2 兆 7,250 億円程度となる見込みです。

一方、経常損益、当期純損益については、昨年 7 月 16 日に発生した新潟県中越沖地震の影響により柏崎刈羽原子力発電所の全号機が運転を停止している中、現時点では、運転計画をお示し出来る状況になく、費用を予想することが困難であることから、通期の業績予想を未定としております。

なお、第 2 四半期累計期間における経常損益は、損失として、連結で 600 億円程度、単独で 850 億円程度、当期純損益は、損失として、連結で 400 億円程度、単独で 550 億円程度を予想しております。

( ) 金融商品取引法において四半期決算が法定化され、従来の「中間期」が「第 2 四半期累計期間」となったもの

### < 通期の見通し >

	連 結	単 独
売 上 高	5兆8,500億円程度	5兆6,100億円程度
経 常 損 益	未 定	未 定
当 期 純 損 益	未 定	未 定

### < 第 2 四半期累計期間の見通し >

	連 結	単 独
売 上 高	2兆8,350億円程度	2兆7,250億円程度
経 常 損 益	600 億円程度	850 億円程度
当 期 純 損 益	400 億円程度	550 億円程度